

# 北海道における集落の地域防災力評価手法に関する研究

## 研究目的

平成16年新潟県中越地震における中山間地域での集落において地すべりや斜面地崩壊による孤立の発生や要援護者等への対応支障など災害対策の課題が明らかになりました。また、内閣府調査（2005）によると北海道の集落においても災害時に孤立発生の可能性があるとしてされています。

この研究では、大規模災害発生時に孤立が想定される道内の集落を対象として、集落の防災活動に関連する指標を整理し、北海道の集落の地域性を考慮した地域防災力評価手法の開発を行うことを目的としています。

## 研究概要

農業センサス・漁業センサスの集落の地勢、形態をもとに北海道の沿岸域の漁業集落と中山間地の農業集落の分類を分析しました。また、内閣府調査における北海道分のデータを基に、孤立可能性のある集落の地勢、形態など集落分類ごとの特徴や孤立の要因、集落の分布・戸数、役場からの距離などの属性を分析しました。

次に孤立可能性のある集落の多い沿岸域、中山間地の集落を対象に、役場の聞き取り調査や現地調査、孤立災害事例調査を実施し、孤立危険度、地域住民属性・地域活動、防災対策の実施について分析しました。これを基にして集落の地域防災力の評価指標を検討し、評価手法を作成しました。

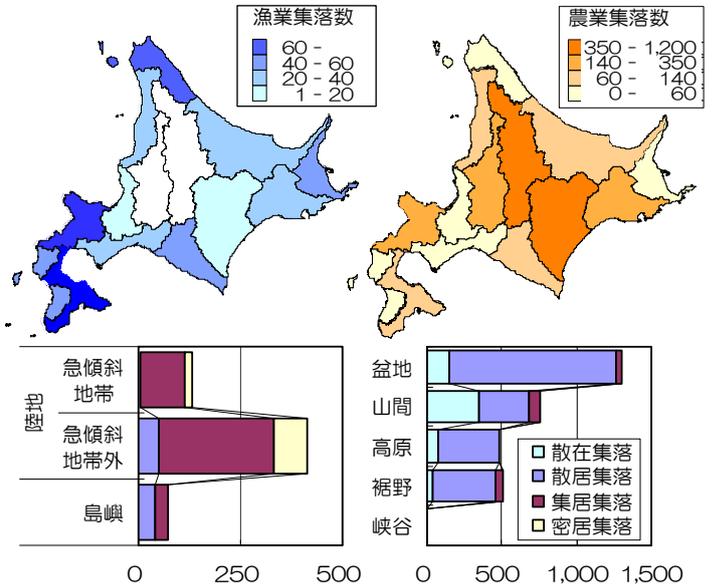


図1 沿岸域の漁業集落数 図2 中山間地の農業集落数

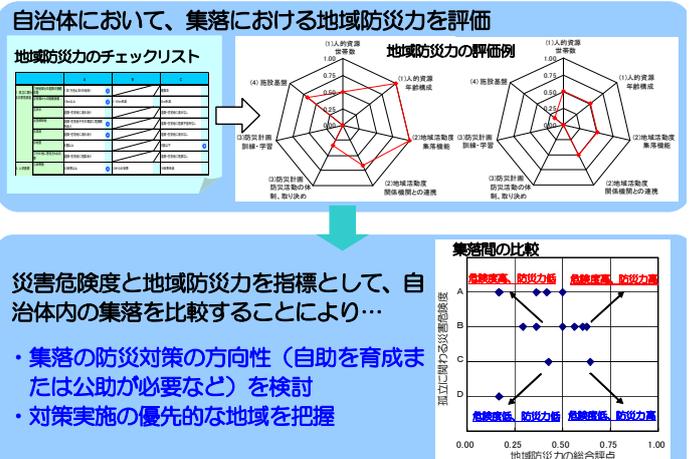


図3 評価手法の防災対策への活用の流れ

## 研究の成果

道内集落の防災活動に関わる実態把握調査及びその分析を基に、地域防災力の評価指標を整理し、集落の地域防災力評価手法を作成しました。

自治体が地域防災計画における地域防災力の向上や孤立地区対策を推進するために、集落の地域防災力の現状や傾向を把握する手段として活用していくことができます。